

今年の北海道の夏は梅雨入りしたごとく不順な天候と猛暑の日々となりましたが、日高の軽種馬育成調教場では、今年も利用者の方々の要望を受け、7~8月の2カ月間、開場時間を1時間早めるサマータイムを実施し好評でした。また、7月には屋内直線馬場のウッドチップの入替え・補充を行いました。今後も万全な状態でご利用いただけるよう努めてまいります。

当センター研修生は7月の町民乗馬大会・浦河競馬祭、8月の民間牧場での牧場実習、9月にはJRA育成馬での馴致実習等、日常の研修日課では経験できない貴重な実体験を得て、非常に有意義な日々を送っております。また、7月には牧場で働こうフェア、8月には体験入学会を実施し、優秀な人材確保に努めております。さらに、8月には1週間の夏休みを取り、研修後半に向け英気を養いました。来年度の研修生の応募は10月14日が締め切りです、多数のご応募をお待ちしております。

(Y.H.)

「たづな」欄には昨年10月1日付で社団法人競走馬育成協会の副会長に就任された和田隆一氏にこれからの抱負を語っていただきました。わが国の競走馬も海外で活躍するようになり、ドバイワールドカップでは日本調教馬のヴィクトワールピサが、サッカーの女子ワールドカップでは「なでしこジャパン」がそれぞれ優勝しました。ここに至るまでともに約30年間の努力が実を結びました。一方で頂点の維持に向けた新たな取り組みが求められます。

シリーズで掲載している「やさしい育成技術」では、JRA日高育成牧場の頃末憲治専門役に子馬の管理法のうち初期育成調教の方法について分かり易く解説していただきました。若馬の飼養管理技術のさらなる向上に役立てていただければ幸いです。「調査・研究」では、「放牧休養中の競走馬の運動量および体力に関する調査」についてJRA美浦トレセン競走馬診療所の浅野寛文氏に執筆していただきました。競走と休養の管理が難しい競走馬ですが、参考にいただければと思います。

「海外の馬最新情報」では、競走馬のいわゆる喉鳴りに関する各種手術の術後評価を紹介しましたので、参考になれば幸いです。「馬にみられる病気」では、屈腱炎の発症状況と予防について解説しました。屈腱炎は最盛期に比べて減少し、有名馬での発症が減り、様々な対策が奏功していることと思います。

(T.Y.)